**大阪府学校教育審議会答申における提言の概要**

**１　提言にあたって**

○急激な少子化が進行する中、府立高校の入学者選抜における志願倍率の二極化、障がいや家庭状況等による支援を要する生徒の増加など、府立高校を取り巻く状況は大きく変化している。

○そのような状況を踏まえつつ、「生徒の多様性に応じて誰一人取り残すことのない教育」「個性や才能を伸ばし自己肯定感をはぐくむ教育」をめざし、「教育の機会均等の確保」「教育の質の向上」「学校の特色と魅力づくり」の面から提言。

**２　提言の概要**

**【生徒のニーズに応えていく就学機会の確保】**

○自立支援コースや共生推進教室の成果や他府県の事例を踏まえながら、インクルーシブ教育システムの考え方をより具体的・実践的に行う「ともに学び、ともに育つ」高校の設置等について検討を行うことが必要。

**【生徒の状況に応じた学習・支援機能の充実】**

○生徒の幅広い多様性への対応について、スクールソーシャルワーカーをはじめ、

日本語支援、保健、医療、福祉等の専門人材が府立学校全体をカバーできる仕組みを整備することが重要。

○大学や民間企業をはじめ外部との連携による多様な探究活動など、生徒の興味・関心等を高め、学習意欲の向上や進路希望の実現につながる多様な取組みを進めることが必要。

**【卒業後をみすえた進学・就職等の支援】**

○進学や就職等をみすえ、社会の一員としての役割を果たすべく、入学当初からの系統的・継続的なキャリア教育を通して、一人ひとりの個性、能力を最大限発揮し、自ら考え・行動するために必要な能力や態度を育てることが重要。

**【特色ある魅力づくりに向けた教育基盤の底上げ】**

○どの学校でも様々な学習や体験ができる教育基盤をさらに充実すべく、高校・支援学校全体のネットワーク化を図り、各校の特色ある教育活動等を共有・活用する仕組みについて検討を行うことが必要。

**【学校運営を支える仕組みの充実】**

○各校における魅力的な取組みや学校生活に係る様々な情報等について、生徒・保護者・府民に、様々な手段・媒体を用いて分かりやすく広報を行い、理解・協力を得ることが重要。